



独立行政法人国立高等専門学校機構 理事長  
小畑 秀文

50年の歴史を礎にさらなる発展を目指して

昨年4月に国立高等専門学校機構の理事長に就任いたしました。高等専門学校の創設は昭和37年4月ですので、ちょうど高専創設50周年という記念すべき年に就任したことになります。国立高専機構は学生総数5万人余、教職員数6千人余からなる大規模な高等教育機関です。これまでの「実践的技術者の育成」を担ってきた高専の教育・研究・産官学連携などを通じた社会貢献などの活動は各界からは極めて高く評価していただいております。この輝かしい50年の歴史の上に新たな発展の歴史を積み増すことこそ、これからの我々の役割と自覚しております。

高専発足時の主たる使命は「実践的技術者の育成」でした。しかし、過去50年という長い年月の間に、科学技術は高度に発展し、産業構造も大きく変化しました。グローバル化も急速に進みつつあります。実際、高専卒業生にはこのグローバル化への対応はもとより、実践性の上に豊かな創造性が求められるようになってきております。この技術者像を一言で表せばイノベーション人材といって良いでしょう。国立高専機構では、高専に対するこのような新たな負託に十分に答えるべく、“進化する高専”をキーワードとして高専としての機能の一層の強化を図るための自己変革を絶え間なく進める体制を確立しております。

「不易流行」という言葉があります。不変なもの、変えてはならないものがある一方で、社会や状況の変化によって変えるべきもの、変えなければならないものがあり、不易と流行との見極めが極めて重要です。発足時から大幅に変化した社会や産業構造を考えれば、高専の使命は“流行”に属し、見直しを行う必要があります。国立高専機構内で叡知を結集した検討の結果として、「グローバルに活躍できる実践的創造的技術者の育成」を現状にふさわしい高専の使命と決めました。実践性の重視は変わりませんが、グローバル化への対応と創造性の育成が重視され、従来の使命と比べて大幅に高度化された内容となっております。課題は、その高度化した使命を単なる“お題目”に止まらず、実のあるものにするものであり、それこそ重要です。各高専での教育・研究活動などがそれに沿うように高度化されなければなりません。そのため、科学技術の現状や社会のニーズを考慮した学科構成の見直し、教育の質保証、創造性を育みグローバル化への対応をはかる教育方法の改善、などについて積極的に議論を進め、イノベーション人材の育成に向けて着実に改革を実行しつつあります。まさに進化しつつあるといえましょう。

ものづくり日本の伝統を受け継ぎ、さらに発展させるうえで、創造的・実践的技術者の育成を担う高専の役割はますます重要になります。これまでの高専の発展の基礎は、“信念と自信と希望”に基づき各人各層が高専の理想とする将来像に向けて前向きな議論を戦わせ、叡知を結集して目標を定め、一丸となって取り組んできたところにあると思います。この“組織の一体性”こそ高専の進化のエネルギーのもとです。これからも国立高専機構は若々しくチャレンジする組織として力を合わせて進化を続け、次の50周年（トータルで100周年）をさらに発展した姿で迎えるべく、一層の努力を傾けたいと考えております。高専に対する関係各位の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。